

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

令和4年2月16日 午後用

第73回獣医師国家試験 実地試験問題 (D)

注意事項

1. 問題数は60問であり、解答時間は2時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを1つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1問につき2つ以上マークした場合には、そのうちの1つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうちE 3 ☑を横線で、
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ずHBの鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……   

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特
に注意すること。

課題 1 次の文を読み、問 1、問 2 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、雌、7 歳齢。左単径部が腫れていることを主訴に来院。病変部は柔らかく還納性が認められた。〔図 1 - A, B〕は、腹部単純 X 線像（A：側方像、B：腹背像）である。〔図 1 - C〕は病変部の超音波検査像である。

別冊 D 図 1 - A, B, C

問 1 〔図 1 - C〕で認められる臓器はどれか。

1. 肝臓
2. 胃
3. 膀胱
4. 腸管
5. 脾臓

問 2 本症例の治療法として適切なのはどれか。

1. 肝葉切除
2. ヘルニア整復
3. 膀胱固定
4. 胃固定
5. 脾臓摘出

課題 2 次の文を読み、問 3、問 4 に答えよ。

〔図 2 - A〕は呼吸器症状を示した牛の肺病変の剖面肉眼像、〔図 2 - B〕は弱拡大の病理組織像 (HE 染色)、〔図 2 - C〕はその拡大像である。

別冊 D 図 2 - A, B, C

問 3 最も疑われる病原体はどれか。

1. *Mycoplasma mycoides* subsp. *mycoides*
2. *Mannheimia haemolytica*
3. *Mycoplasma bovis*
4. Bovine parainfluenza virus 3
5. *Mycobacterium bovis*

問 4 本症例の病変に関連する変化はどれか。

1. 大理石紋理
2. 硝子膜
3. 無気肺
4. 初期的変化群
5. 肺動脈塞栓症

課題 3 次の文を読み、問 5、問 6 に答えよ。

犬、雑種、避妊雌、11 歳齢。排尿痛を伴う頻尿と赤色尿を主訴に来院。〔図 3 - A〕は腹部 X 線側方像、〔図 3 - B〕は膀胱の超音波検査像、〔表 3 - C〕は尿検査結果、〔図 3 - D, E〕は尿の無染色鏡検像〔D：×100、E：×400〕である。

<p>別冊 D 図表 3 - A, B, C, D, E</p>

問 5 最も疑われる疾患はどれか。

1. 細菌性膀胱炎
2. 移行上皮癌
3. 膀胱結石
4. 膀胱ポリープ
5. 特発性膀胱炎

問 6 本症例の治療法として最も適切なのはどれか。

1. 抗菌薬の投与
2. 膀胱切開術
3. 膀胱部分切除術
4. 非ステロイド系抗炎症剤の投与
5. コルチコステロイドの投与

課題 4 次の文を読み、問 7、問 8 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、雄、12 歳齢。排便困難を主訴に来院。直腸検査では糞便の貯留と直腸の拡張が認められた。患部の触診では、熱感・疼痛は認められなかった。〔図 4 - A〕は肛門周囲の外貌、〔図 4 - B〕は腹部 X 線側方像である。

別冊 D
図 4 - A, B

問 7 最も疑われる疾患はどれか。

1. 直腸脱
2. 肛門周囲瘻
3. 肛門周囲腺腫
4. 会陰ヘルニア
5. 肛門嚢炎

問 8 本症例に対する治療法として最も適当なのはどれか。

1. 辺縁部切除による病変部の摘出
2. 骨盤隔壁の再建
3. 脱出部の還納および巾着縫合
4. 抗菌薬の投与
5. 免疫抑制剤の投与

課題 5 次の文を読み、問 9、問 10 に答えよ。

動物検疫所では海外からの肉製品の違法な持込みへの対応を厳格化している。〔図 5〕はその取り組みの中で、豚肉加工品から分離されたのと同じウイルスの電子顕微鏡写真である。

別冊 D

図 5

問 9 このウイルスはどれか。

1. インフルエンザウイルス
2. アフリカ豚熱ウイルス
3. 豚流行性下痢ウイルス
4. 豚熱ウイルス
5. 豚水疱病ウイルス

問 10 このウイルスまたは感染症の特徴について適切なのはどれか。

- a 我が国では 3 回の大流行があった。
- b 蹄や鼻に水疱が形成される。
- c ワクチンが市販されている。
- d 節足動物が媒介する。
- e 豚とイノシシに感染する。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題 6 次の文を読み、問 11、問 12 に答えよ。

犬、ミニチュア・ピンシャー、避妊雌、11 歳齢。急な食欲不振、嘔吐、下痢を主訴に来院。身体検査では発熱はなく軽度の黄疸と腹部触診による波動感を触知。X 線検査ならびに超音波検査にて、腹水貯留を確認した。〔表 6 - A〕は本症例の血液検査結果、〔表 6 - B〕は貯留液の検査結果である。

<p>別冊 D 表 6 - A, B</p>

問11 最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 右心不全
2. 消化管穿孔
3. 蛋白漏出性腸症
4. 膀胱破裂
5. 胆嚢破裂（胆汁性腹膜炎）

問12 本症例の治療法として最も適切なのはどれか。

1. シルデナフィル投与
2. 胆嚢摘出術
3. 腸吻合術
4. 低脂肪食の給餌
5. 破裂した膀胱の整復

課題7 次の文を読み、問13、問14に答えよ。

羊、雑種、去勢雄、2歳齢。糞便表面に〔図7-A〕のような白く柔らかい物体が多数付着しているとのことで診察した。糞便を浮遊法により検査したところ、〔図7-B〕が認められた。

別冊D 図7-A, B

問13 糞便表面に付着しているのはどれか。

1. 方形条虫
2. 葉状条虫
3. 乳頭条虫
4. 拡張条虫
5. ベネデン条虫

問14 本疾患の治療薬として適切なのはどれか。

1. イベルメクチン
2. レバミゾール
3. プラジクアンテル
4. スルファジメトキシム
5. フルメトリン

課題 8 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。

食中毒患者糞便をある選択分離培地に塗抹して培養したところ、〔図 8 - A〕のコロニーが得られた。定型集落の生化学性状試験は〔図 8 - B〕の結果となった。

別冊 D 図 8 - A, B

問15 最も疑われる原因菌はどれか。

1. サルモネラ属菌
2. 腸管出血性大腸菌 O157
3. 腸炎ビブリオ
4. エルシニア・エンテロコリチカ
5. 黄色ブドウ球菌

問16 この食中毒または原因菌に関する記述として適切なのはどれか。

1. 適切な環境での世代時間は約 10 分である。
2. 低温細菌である。
3. 鶏卵内部に存在することがある。
4. 摂取後 2～7 日で発症することが多い。
5. 最少発症菌数は約 10^2 個である。

課題9 次の文を読み、問17、問18に答えよ。

〔図9-A〕は顔面腫脹を主訴に来院した猫の写真である。〔図9-B〕は病変部位の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色）である。

別冊D
図9-A, B

問17 最も疑われる疾患はどれか。

1. クリプトコックス症
2. 猫ウイルス性鼻気管炎
3. 猫ひっかき病
4. 猫カリシウイルス病
5. 猫クラミジア病

問18 この病原体または疾患に関する記述として正しいのはどれか。

1. 有効な弱毒生ワクチンがある。
2. 病原体の伝播にはノミが関与する。
3. ハトの糞との接触を避けることが予防となる。
4. 病原体は猫にのみ感染する。
5. 有効な治療法はない。

課題10 次の文を読み、問 19、問 20 に答えよ。

犬、チワワ、避妊雌、8歳齢。血尿を主訴に来院。〔図 10 - A〕は腎臓の超音波検査像、〔図 10 - B〕はカラードプラ像、〔図 10 - C〕は病変部の造影 CT 検査横断像である。〔図 10 - D〕は病変部の細針吸引細胞診像（ギムザ染色、×400）である。

別冊 D 図 10 - A, B, C, D

問19 最も疑われる疾患はどれか。

1. 糸球体腎炎
2. 多発性嚢胞腎
3. 腎細胞癌
4. 肉芽腫性腎炎
5. 腎盂腎炎

問20 この疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. 遺伝性疾患である。
2. 多血症を合併することがある。
3. 化学療法が奏効する。
4. 抗菌薬で治療する。
5. 免疫抑制療法により寛解する。

課題11 次の文を読み、問 21、問 22 に答えよ。

〔図 11〕 は搾乳におけるある作業過程である。

別冊 D 図 11

問21 この作業において使用されている器具はどれか。

1. デイッパー
2. セジメントテスター
3. バケットミルクカー
4. ティートカップ
5. ストリップカップ

問22 この作業過程の役割として適切でないのはどれか。

1. 乳頭口における生乳の通りをよくする。
2. 異常乳を発見する。
3. 搾乳刺激をする。
4. 乳頭を清潔にする。
5. 乳頭内に貯留している異常乳を排泄させる。

課題12 次の文を読み、問 23、問 24 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、13 か月齢。放牧約 1 か月後に元気消失と食欲不振を呈した。可視粘膜は蒼白で、ヘマトクリット値は 18 %であった。〔図 12〕は末梢血液塗抹標本の鏡検像（ギムザ染色）である。

別冊 D

図 12

問23 赤血球に存在する病原体はどれか。

1. *Anaplasma marginale*
2. *Mycoplasma wenyonii*
3. *Theileria orientalis*
4. *Babesia ovata*
5. *Trypanosoma brucei*

問24 本疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. アブやサシバエが病原体を媒介する。
2. 血管内溶血するため血色素尿が認められる。
3. 貧血期には赤血球の再生像は認められない。
4. 病原体の分離培養により確定する。
5. 治療にはジミナゼン製剤が有効である。

課題13 次の文を読み、問 25、問 26 に答えよ。

犬、柴、雄、1 歳齢。ドッグランで遊んでいたところ突然左後肢を挙上したとの主訴で来院。〔図 13 - A, B〕は股関節周囲の X 線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D 図 13 - A, B

問25 本症例の脱臼の方向として正しいのはどれか。

1. 尾腹側
2. 頭背側
3. 尾背側
4. 頭内側
5. 尾外側

問26 本症例の治療法として最も適切なのはどれか。

1. 断脚
2. 関節内骨片の除去
3. 関節包縫合
4. 三点骨盤骨切術
5. 大腿骨頭骨頸部切除術

課題14 次の文を読み、問 27、問 28 に答えよ。

国内にある鶏舎で複数の雛が咯血し、腹腔内出血により死亡する例も現れた。衰弱個体の鑑定殺により、筋肉や諸臓器に点状出血が認められた。その個体の心臓の病理組織学的観察により、〔図 14〕に示す虫体（HE 染色）が認められた。

別冊 D

図 14

問27 最も疑われる疾患はどれか。

1. トキソプラズマ病
2. 鶏マラリア
3. 鶏ロイコチトゾーン病
4. ヒストモナス症
5. 鶏コクシジウム症

問28 本疾患またはその病原体に関する記述として適切なのはどれか。

- a 野鳥を含むさまざまな鳥類が宿主となる。
- b ニワトリヌカカにより媒介される。
- c 診断には寒天ゲル内沈降反応による血清学的検査が有効である。
- d 発症予防にはメトロニダゾールが適している。
- e 我が国では北海道での流行が多い。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題15 次の文を読み、問 29、問 30 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、避妊雌、10 歳齢。高所から落下し、左後肢を挙上しているとの主訴で来院。患肢の皮膚に外傷はなかった。〔図 15 - A, B〕は患肢の単純 X 線像（A：側方像、B：頭尾像）である。

別冊 D
図 15 - A, B

問29 本症例の骨折様式として適切なのはどれか。

1. 横骨折
2. 螺旋骨折
3. 斜骨折
4. 若木骨折
5. 粉碎骨折

問30 本症例の治療の際に併用する手術法として最も適当なのはどれか。

- a サークラージワイヤー法
- b ラグスクリュー法
- c 髓内ピン法
- d テンションバンドワイヤー法
- e クロスピン法

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題16 次の文を読み、問 31、問 32 に答えよ。

牛、黒毛和種、雌、6 歳齢。長期不受胎のために診察した。〔図 16〕は血中エストラジオールとプロジェステロン濃度の推移と卵胞直径の変動である。

別冊 D

図 16

問31 最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 卵巣静止
2. 卵胞嚢腫
3. 黄体嚢腫
4. 嚢腫様黄体
5. 鈍性発情

問32 この疾患の治療に用いられる薬剤として最も適切なのはどれか。

- a 馬絨毛性性腺刺激ホルモン (eCG) 製剤
- b GnRH 製剤
- c 膣内留置型プロジェステロン徐放剤
- d $\text{PGF}_{2\alpha}$ 製剤
- e 安息香酸エストラジオール製剤

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題17 次の文を読み、問 33、問 34 に答えよ。

〔図 17〕における灰色の部分はある人獣共通感染症の海外におけるヒトのワクチン接種推奨地域を示している。

別冊 D

図 17

問33 この感染症はどれか。

1. クリミア・コンゴ出血熱
2. デング熱
3. 黄熱
4. チクングニア熱
5. リフトバレー熱

問34 この感染症に関する記述として誤っているのはどれか。

1. ヒトに対して弱毒生ワクチンが用いられる。
2. 母体から胎児への垂直感染がある。
3. 都市部では病原体が主にネッタイシマカによって媒介される。
4. 不顕性感染がある。
5. サルでもヒトと類似した病態がみられる。

課題18 次の文を読み、問 35、問 36 に答えよ。

猫、雑種、避妊雌、4 歳齢。1 週間前からの呼吸促迫を主訴に来院。心雑音は聴取されなかった。〔図 18 - A, B〕は胸部 X 線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D
図 18 - A, B

問35 本症例の X 線像の異常所見として適当なのはどれか。

- a 食道拡張
- b 気管狭窄
- c 心膜横隔膜ヘルニア
- d 心拡大
- e 胸水貯留

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問36 次に実施すべき検査として最も適切なのはどれか。

- 1. 消化管造影 X 線検査
- 2. 消化管内視鏡検査
- 3. 心臓超音波検査
- 4. 腹部超音波検査
- 5. 気管支内視鏡検査

課題19 次の文を読み、問 37、問 38 に答えよ。

馬、ペルシュロン種、雄、6日齢。正常分娩で娩出され、生後すぐに初乳を摂取した。〔図 19〕は昨夜排泄した尿である。今朝から起立不能となった。心悸亢進および呼吸促迫がみられた。

別冊 D

図 19

問37 最も疑われる疾患はどれか。

1. 膀胱炎
2. ワラビ中毒
3. 馬伝染性貧血
4. 新生子同種溶血（新生子黄疸）
5. 産褥性血色素尿症

問38 本症例の治療に有効な薬剤として適切なのはどれか。

1. ペニシラミン
2. ペニシリン
3. ヘパリン
4. コルチコステロイド
5. リン酸ナトリウム

課題20 次の文を読み、問 39、問 40 に答えよ。

牛におけるある疾患に関する飼養管理のリスク因子について研究した。このリスク因子への曝露群と非曝露群を 30 頭ずつ選定した。〔表 20〕は一定期間後の各群における発症状況である。なお、これらの牛の品種と観察開始時の満年齢は同一とする。

別冊 D 表 20

問39 この研究手法はどれか。

1. コホート研究
2. 横断研究
3. 生態学的研究
4. 症例対照研究
5. 介入研究

問40 この研究に用いる疫学指標と、その値の組合せはどれか。ただし、値は小数点以下第 2 位を四捨五入してある。

指標	値
1. 相対リスク (リスク比) ——	3.6 $((22 \times 17) \div (13 \times 8))$
2. 相対リスク (リスク比) ——	1.7 $((22 \div 30) \div (13 \div 30))$
3. 寄与リスク (リスク差) ——	0.3 $((22 \div 30) - (13 \div 30))$
4. オッズ比 ——	3.6 $((22 \times 17) \div (13 \times 8))$
5. オッズ比 ——	1.7 $((22 \div 30) \div (13 \div 30))$

課題21 次の文を読み、問 41、問 42 に答えよ。

犬、トイ・プードル、避妊雌、3歳齢。3か月前からの食欲亢進、軟便、体重減少を主訴に来院。糞便検査では病原体は検出されなかった。〔図 21 - A〕は糞便の外観、〔表 21 - B〕は血液検査結果である。腹部 X 線検査および超音波検査では異常は認められなかった。

<p>別冊 D 図表 21 - A, B</p>

問41 最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 炎症性腸疾患
2. 食餌反応性腸症
3. 肝外胆管閉塞
4. 膵外分泌不全
5. 腸リンパ管拡張症

問42 次に実施すべき検査として最も適切なのはどれか。

1. 消化管内視鏡検査
2. 血清トリプシン様免疫活性 (TLI) の測定
3. 血清 IgE 検査
4. 試験的開腹
5. 血清膵特異的リパーゼ免疫活性 (PLI) の測定

課題22 次の文を読み、問 43、問 44 に答えよ。

馬、サラブレッド種、雄、2歳齢。元気食欲の減退と発熱（39.5℃）を呈したので診察した。〔図 22 - A〕は鼻鏡の周囲、〔図 22 - B〕は下顎の腫脹部の外観である。

別冊 D
図 22 - A, B

問43 最も疑われる疾患はどれか。

1. 破傷風
2. 類鼻疽
3. ロドコッカス・エクイ感染症
4. サルモネラ症
5. 腺疫

問44 この疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. *Streptococcus equi* subsp. *zooepidemicus* が原因菌である。
2. 潜伏期は約 3 か月である。
3. 老齢馬が罹患しやすい。
4. 治療にはペニシリンやセフェム系の抗菌薬を使用する。
5. 我が国でも近年ワクチンが広く利用されている。

課題23 次の文を読み、問 45、問 46 に答えよ。

〔図 23〕は 2011 年の福島第一原子力発電所事故から約 1 か月後に測定した福島県および近県の土壌表層における、ある放射性物質の沈着状況を示している。

別冊 D

図 23

問45 この物質はどれか。

1. キセノン 133
2. ヨウ素 131
3. セシウム 134 およびセシウム 137
4. ストロンチウム 90
5. プルトニウム 239

問46 この事故で放出された放射性物質への対応として最も適切なのはどれか。

1. 放射性物質に汚染された廃棄物の処理は主に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）」に基づいて行われている。
2. 「土壌の汚染に係る環境基準」において放射性物質の項目が設けられている。
3. 飲食物中の放射性物質は「食品安全基本法」によって規制されている。
4. 飲食物中の放射性物質の基準値は一律に設定されている。
5. 牛の飼料における放射性物質の暫定許容値が設定されている。

課題24 次の文を読み、問 47、問 48 に答えよ。

犬、ボーダー・コリー、去勢雄、11 歳齢。半年前からの活動性の低下、運動不耐性を主訴に来院。血液検査では白血球数 $64,000/\mu\text{l}$ 、赤血球数 $4.55 \times 10^6/\mu\text{l}$ 、ヘモグロビン濃度 13.8 g/dl 、ヘマトクリット値 40%、血小板数 $21.8 \times 10^4/\mu\text{l}$ であった。〔図 24〕は血液塗抹像（ライトギムザ染色、 $\times 100$ ）である。

別冊 D

図 24

問47 最も疑われる疾患はどれか。

1. 急性骨髄性白血病
2. 慢性骨髄性白血病
3. 急性リンパ球性白血病
4. 慢性リンパ球性白血病
5. 本態性血小板血症

問48 本疾患に関する記述として最も適当なのはどれか。

1. 単クローン性 γ グロブリン増加症がみられることがある。
2. ヒドロキシカルパミドの投与が行われる。
3. 異常細胞はペルオキシダーゼ染色で陽性となる。
4. 骨髄検査では芽球比率が 30% 以上となる。
5. 有効な治療法は報告されていない。

課題25 次の文を読み、問 49、問 50 に答えよ。

馬、ポニー種、去勢雄、15 歳齢。左前肢の跛行を認めた。〔図 25〕は蹄部の X 線側方像である。

別冊 D

図 25

問49 最も疑われる疾患はどれか。

1. 角壁腫
2. 蹄骨骨折
3. 蹄叉腐爛
4. 遠位種子骨炎
5. 蹄葉炎

問50 この疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 炭水化物の多給や患肢への過度の負重が原因になる。
- b 前肢より後肢に多発する。
- c 神経ブロックでは跛行は改善しない。
- d 急性期には鎮痛剤を投与し自力歩行を促す。
- e 治療には疼痛管理と装蹄療法が有効である。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題26 次の文を読み、問 51、問 52 に答えよ。

九州地方の農場の子牛が自力で起立困難であったため、安楽死させた。〔図 26〕は当該牛の脳の写真である。この牛の血液から 2 本鎖 RNA ウイルスが分離された。

別冊 D

図 26

問51 最も疑われる疾患に関する記述として正しいのはどれか。

1. スカカが媒介する。
2. 高頻度で下痢症状を呈する。
3. アルテリウイルス科のウイルスが原因である。
4. ワクチンによる予防は行われていない。
5. 馬にも自然感染が確認されている。

問52 本症と同じウイルス科のウイルスが原因となる疾患はどれか。

1. 牛伝染性鼻気管炎
2. アカバネ病
3. ブルータング
4. 馬伝染性貧血
5. 豚繁殖・呼吸障害症候群

課題27 次の文を読み、問 53、問 54 に答えよ。

犬、マルチーズ、去勢雄、9歳齢。1か月前に糖尿病と診断され、NPH インスリン（0.5 単位/kg、1日2回）の投与を受けている。依然として多飲多尿がみられ、体重が減少傾向にある。〔図 27〕は血糖曲線の結果である。

別冊 D 図 27

問53 血糖曲線の解釈として最も適当なのはどれか。

1. 血糖降下が大きすぎる。
2. 血糖降下が小さすぎる。
3. インスリンの作用時間が長すぎる。
4. インスリンの作用時間が短すぎる。
5. 適切な血糖降下が得られている。

問54 次に実施する対処として最も適切なのはどれか。

1. PZI インスリンに変更する。
2. レギュラーインスリンに変更する。
3. インスリンの投与量を増加する。
4. インスリンの投与量を減量する。
5. 食餌の給与量を増加する。

課題28 次の文を読み、問 55、問 56 に答えよ。

養殖ブリが生簀網に体を擦り付けるように遊泳し、体表に擦過傷を負う個体が見られた。病魚の体表には〔図 28 - A〕の矢印の構造が観察された。淡水浴の後、これらの構造は〔図 28 - B〕の矢印のようになった。

別冊 D
図 28 - A, B

問55 最も疑われる疾患はどれか。

1. ヘテラキシネ症
2. ベネデニア症
3. ヘテロボツリウム症
4. イクチオホヌス症
5. トリコジナ症

問56 この疾患の対処法として淡水浴以外で適切なのはどれか。

- a ブロノポールによる薬浴
- b 混合ビタミン製剤の経口投与
- c 濃塩水浴
- d プラジクアンテル製剤の経口投与
- e 過酸化水素製剤による薬浴

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題29 次の文を読み、問 57、問 58 に答えよ。

犬、トイ・プードル、避妊雌、9 歳齢。口腔内腫瘍を 2 週間前に発見したとの主訴で来院。病変は急激に増大し、出血と疼痛を伴っていた。〔図 29 - A〕は下顎の外貌、〔図 29 - B〕は病変部の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色、× 100）である。

別冊 D 図 29 - A, B

問57 最も疑われる疾患はどれか。

1. 扁平上皮癌
2. 悪性黒色腫
3. 線維肉腫
4. 骨肉腫
5. 棘細胞性エナメル上皮腫

問58 この疾患に関する記述として最も適当なのはどれか。

1. 良性腫瘍であるが、骨浸潤が認められる。
2. 診断時にはほとんどの症例で肺転移が生じている。
3. 骨原発性腫瘍で類骨形成を特徴とする。
4. 顎骨を含めた外科的切除が治療の第一選択である。
5. ドキソルビシンによる化学療法が著効する。

課題30 次の文を読み、問 59、問 60 に答えよ。

犬、ウェルシュ・コーギー、雄、10歳齢。脱毛を主訴に来院。身体検査にて腹腔内腫瘍と乳腺腫大、血液検査にて貧血を認めた。〔図 30 - A〕は腫瘍の外観、〔図 30 - B〕は病理組織像（HE 染色）である。

別冊 D 図 30 - A, B

問59 最も疑われる疾患はどれか。

1. 精上皮腫（セミノーマ）
2. セルトリ細胞腫
3. ライディッヒ細胞腫
4. 奇形腫
5. リンパ腫

問60 本症例の臨床徴候の原因とされているホルモンはどれか。

1. エストロジェン
2. プロジェステロン
3. アルドステロン
4. コルチゾール
5. テストステロン

